

続報 香雪美術館所蔵「帰来迎図」の修理

2019年11月23日に修理の開始をお報せしました「帰来迎図」ですが、その続報をお伝えします。

1

修理は、まずは作品の現在の状態をじっくりと観察することから始まります。大事なのは、「どこが、どのように傷んでいるのか」という点を把握すること、そして過去に何度も行われてきた修理の痕跡をあぶりだすことです。



検討中…

この修理は、三菱財団の2019年度文化財修復事業助成金をうけて、2020年9月の完成を目指して進めています。

次回もどうぞ期待！

「帰来迎図」中の赤鬼と青鬼

2

上の写真のとおり「帰来迎図」は掛軸の作品です。次に行うのは、掛軸の解体。

掛軸は、絵画のまわりを飾る^{きれ}裂、それを裏側から支える何枚もの^{うらうちがみ}裏打紙によって構成されています。

これを一つ一つはずしていき、絵の描かれている絹と、そのすぐ裏の^{はだうらがみ}肌裏紙だけの状態にします。その後、浄化水で汚れを落とします。現在の「帰来迎図」の修理は、この段階まで進みました。

3

先日、この後どのように修理を進めていくか、修理を担当する岡墨光堂と当館の学芸員とで検討を行いました。久しぶりに対面した「帰来迎図」は、無数に入っていた横折れが消え、汚れも落ちて、**驚くほどクリアな画面**になっていました。ここまでの過程で、作品のすみずみまで目が行き届き、多くの発見があるのですが、肌裏紙をはずすとさらに奥の奥まで見えてきますので、そうしてお話は修理完成後にゆっくりといたしましょう。続報をご期待ください。